

※ 試験時間：60分、指定教科書・参考書、配付プリント、自筆ノートのみ持込可
答案を書く順序は自由だが、大設問ごとに切れ目なく記入すること。

1. この講義で取り上げた次の専門用語について、それぞれの内容（定義）を答案用紙2行以内で説明せよ。

- ① 租税輸出
- ② 最適人口分布の条件
- ③ フライペーパー効果
- ④ 地方分権定理
- ⑤ ティンバーゲンの原理
- ⑥ ソフトな予算制約（soft budget constraint）
- ⑦ 地方債協議制度
- ⑧ 課税平準化理論

2. 公共政策に関する次の論評に対して、(A)妥当であるか妥当でないかを答え、(B)その理由を述べなさい。

- ① 消費税は逆進的である。
- ② 低所得者に対して配慮するために、消費税で軽減税率を設けるべきである。
- ③ 社会保障給付には世代間格差があるから、それを緩和するために消費税は有用である。
- ④ 法人税は法人だけが負担している。
- ⑤ 地域間格差は、地域の所得水準だけでみるのではなく、住民の効用水準でみるべきである。

3. 日本の地方財政制度について、次の①～⑤に答えよ。

- ① 地方債の資金区分にはどのようなものがあるか、答案用紙3行以内で説明せよ（論評を加える必要はない）。
- ② 地方債元利償還金の交付税措置とはどのようなものか、答案用紙3行以内で説明せよ（論評を加える必要はない）。
- ③ 現行の地方債の制度には、どのような点に問題があり、それをどのように改革する必要があると考えるか、あなたの見解を述べよ。
- ④ 現行の地方税制には、どのような点に問題があり、それをどのように改革する必要があると考えるか、あなたの見解を述べよ。
- ⑤ 現行の地方交付税の制度には、どのような点に問題があり、それをどのように改革する必要があると考えるか、あなたの見解を述べよ。

上記の③～⑤に答えるにあたり、以下の点に注意すること。

- ③～⑤に与えられる得点は、答案の内容が講義担当者の見解と一致しているか否かとは全く関係がなく、唯一絶対の正解が用意されているわけではない。
- ③～⑤は、あなたの考えの首尾一貫性が問われる。したがって、③～⑤に与えられる得点は、それぞれの答案の内容がいかに整合的であるかによって決まる。
- ③～⑤の解答では字数を制限しない。ただし、多く書けば高い得点を与えられるというわけではない。短くても要領を得た内容であれば、高い得点を与えられる。

4. 市場の失敗について、次の問いに答えよ。

- ① 市場の失敗が起こる要因は何か、3つ以上挙げよ。
- ② 市場均衡の調整には、数量調整と価格調整があるが、価格調整がうまくいっていない実例を1つ挙げ、答案用紙3行以内で説明せよ。

5. 年金財政に関する次の問いに答えよ。

いま、若年期と高齢期の2期間を生きる家計をモデルに、(積立方式の)年金を考える。簡単化のため、利子率は0%であるとする。家計は、若年期に高所得者である人が1万人、低所得者である人が1万人いるとする。現役期には、年金保険料とは別に税負担があり、高所得者には200、低所得者には100あるとする。その家計が、高齢期まで生存する確率は75%で全ての人にとって同じであるとする。そして、若年期に全員から年金保険料をとって、高齢期まで生存者した人に対し1人当たり200の年金を給付したい(年金にまつわる世代間での給付と負担の連関はない)と考えている。若年期の高所得者に対する年金保険料を x_H 、低所得者に対する年金保険料を x_L と表す。

- ① この年金財政の収支均衡を表す式を示せ。
- ② もし高所得者も低所得者も同額の年金保険料を課すとすれば、いくらになるか答えよ(途中の計算過程も示せ)。
- ③ 低所得者の年金保険料負担に配慮して、低所得者の年金保険料を100としたとする。このとき、高所得者の年金保険料はいくらになるか答えよ(途中の計算過程も示せ)。
- ④ ③のときに、前述の年金保険料とは別の税負担をも合わせた負担は、高所得者と低所得者でそれぞれいくらになるか答えよ(途中の計算過程も示せ)。
- ⑤ ②で求めた高所得者も低所得者も同額の年金保険料を課すとして、④で求めた同額の負担(年金保険料と税の負担の合計)を、高所得者にも低所得者にも課すとすれば、税負担は高所得者と低所得者でそれぞれいくらになるか答えよ(途中の計算過程も示せ)。
- ⑥ ④と⑤は、高所得者も低所得者も年金保険料とは別の税負担をも合わせた負担は同じである(しかし、年金保険料と税負担の構成が異なる)。年金にまつわる保険機能と所得再分配機能の視点から見て、④の政策と⑤の政策を比較してどちらの政策が望ましいか、理由を付して説明せよ。